

震災復興 当事者に学ぶ

高校教諭ら意見交換

県内の高校社会科の教諭で組織される「県高等学校社会科教育研究会地理部会」は14日、県立浦和高校

〇法人の3者が連携して復興に関わり、比較的早い段階で街が再生したとされる。

(さいたま市浦和区)で、東日本大震災で津波の被害を受けた宮城県仙台市宮城野区の南蒲生地区の再生に関わった講師3人を招き、パネルディスカッションを行った。参加した教諭ら約30人が被災後のまちづくりについて理解を深めた。

同地区は津波で建物が全壊したり、屋敷林が流失したりするなどの被害を受け、震災後に一部が「災害危険区域」に設定された。地元自治会、行政、コンサルタント業務を担ったNP

この日は、震災後から同地区の町内会で復興部長を務めた芳賀正さん(70)、同市職員の結城彰彦さん(44)、NPO法人「都市デザインワークス」でコンサル業務を担当した岡井健さん(41)が登壇。まちづくりの方針を話し合う会議で、同法人が住民からの要望をくみ取り、利害調整を図っ

た取り組みなどを紹介。被災した地域の復興についてアドバイスを求められると、「プロを含めた仲間作りが大切」「まずは現地に足を運んでみては」などと答えていた。



会場からの質問に答える講師ら(14日、県立浦和高校で)